

長期間にわたり無職の状態が続いていた人の社会復帰に向けた相談・支援

■人権キーワード

障がい者、近隣関係、コロナウイルス感染拡大の影響

■相談の主訴

障がいがあるAさんが、以前からあった近隣宅の敷地内に入る行為を頻繁に行なうので、困っている。止めさせて欲しい。

■相談者

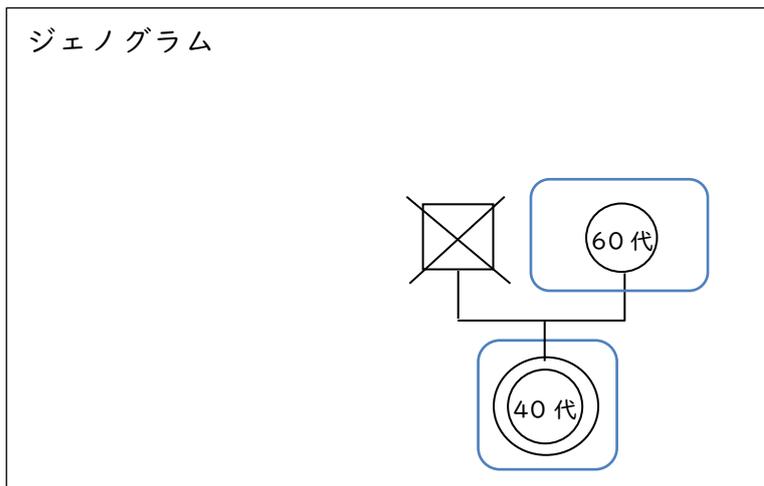
- ・ 相談者はAさんに入られた近隣住人の一人。50代、女性。
- ・ 人権文化センターに以前から近隣トラブルの相談をしている。

■Aさん

- ・ 40代、女性、アパートで一人暮らし。発達障がいがあり、以前から他人の家や民間ビルなどに昼夜を問わず入る特性がある。
- ・ 睡眠薬の効果がない。過去に入院経験があり、精神科病院に通院中。
- ・ 人権文化センターを以前から利用している。

■Aさんの家庭状況

- ・ 以前は両親と3人で暮らしていたが、父が他界し母子家庭になる。高齢により母親が娘(行為者)と同居できなくなり、成人してから母親と別々で暮らすようになる。
- ・ 現在、母親と娘は連絡を取り合っていない。



■相談に至った経緯

- ・ 近隣の家の敷地に入られる回数が以前より増えたため、近隣住人が人権文化センターに相談された。

■相談内容とAさんの状況等

- ・ 以前から近隣トラブルがあり、近隣住人はAさんに引っ越して欲しいと感じている。
- ・ Aさんは、新型コロナウイルスの感染拡大により、普段の生活状況ではなくなったことで、不安定になり、近隣の家の敷地に入る回数が以前より増えた。
- ・ Aさんは物持ちが良く、自宅に荷物がたくさんある。自炊ができず、家事援助などの障がい福祉サービスを利用。
- ・ Aさんは、働いたことがあるが、現在は無職。障害基礎年金と親が貯めた貯金で生活。
- ・ Aさんは、近くの図書館に行くなど、元々は外出が好きであったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外出の機会が減少している。
- ・ 過去の入院の影響により、Aさんは入院に対して嫌悪感がある。

■対応

- ・ 地域の関係機関（人権協会、民生児童委員、障がい者相談機関、障がい福祉サービス事業所、医療機関）と調整してケース検討会議を開催し、今後の対応や方向を検討。Aさんの不安解消に向けた夜間のAさん宅訪問、主治医との診察と処方薬の調整、入院が必要になった場合の対応や支援の調整などを検討した。
- ・ ケース検討の方向をAさんが理解しやすいよう説明し、まずは日常の相談や昼夜の侵入防止に向けた日中活動の受け入れを行なった。
- ・ 近隣住人に今後の対応・方向を説明し、当面の理解を得た。

■評価および今後の課題

- ・ 障がい者が地域で住み続けることができるよう、地域移行に向けた地域における合理的配慮の醸成が必要である。
- ・ 地域移行においては、住人たちの感情実態の課題を少しずつ解消していくための障がいへの理解の促進や人間関係作り等が必要である。
- ・ 支援者による夜間のAさんへの支援に限界がある。
- ・ 日中活動や外出できる行動援護や移動支援、またボランティアによる外出支援などのサービス利用の検討が必要。
- ・ Aさんの障がい特性から、近隣住人とのトラブルが再び発生する恐れがある。
- ・ Aさんに入院への嫌悪感があり、本人の意思の尊重や、医療保護入院の是非等の人権の配慮の難しさがある。また、入院以外の選択肢や制度、社会資源の不足の課題がある。
- ・ Aさんの意向と支援者や支援機関との方向性にズレが生じた場合の調整が難しい。
- ・ 近隣住人たちが安心できる生活と、Aさんの暮らし方や地域社会で共に生きる共生についての地域の取り組みや働きかけが更に必要である。
- ・ Aさんの障がい特性や生活状況を踏まえると、成年後見人の利用を検討する必要がある。

■連携が想定される資源・利用が想定されるサービス等

- ・ 発達障がいに関わる専門家
- ・ 大阪府発達障がい者支援センター、府立障がい者自立相談支援センター
- ・ 大阪府内の障害者就業・生活支援センター
- ・ 市町村の障がい福祉担当部署や発達障がい者支援センター
- ・ 市町村の人権担当部署
- ・ 障がい者地域活動支援センター
- ・ 障がい福祉サービス事業所
- ・ 医療機関
- ・ 民生児童委員
- ・ 社会福祉協議会
- ・ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
- ・ 成年後見人
- ・ 人権文化センター
- ・ 地域人権協会